太宰府市教育委員会だより

つながる

Vol.31

誰もが安心できる学校へ
～二分の一成人式について考える～

教育委員会　教育委員
武藤（むとう）　佳穂里（かほり）

問い合わせ
社会教育課教務係
（☎内線４６７）

20歳の成人式は、人生の節目として毎年一月に盛大に開催されています。今年はわが娘も参加し、懐かしい友人に囲まれ嬉しそうでした。

10歳になったことを祝う二分の一成人式が定着している小学校も多くあります。保護者へ子どもたちからの感謝の言葉や歌などが披露され、参加した保護者からは「感動した」「涙が出た」との声もあり夫婦で参加する人も多いと聞きました。

この二分の一成人式は、学習指導要領に明記された活動ではなく、それぞれの学校独自の行事として行われています。今年20歳になった娘の時から行われていましたので太宰府市でも10年は続いているのだと思います。その当時、わが子あてに手紙をこっそり書くよう言われたことを覚えています。

家族の形態が多様化している現在、両親そろっている家庭が当たり前ではなくなってきています。家族と暮らせない子がいるかもしれません。そうなると出生時の様子や名前の由来、幼いころの写真などを簡単に提出できない家庭もあると思います。学校にはいろんな家庭環境の子どもたちが、かけがえのない仲間とともに支え合い、多くのことを学び合っています。私たち大人は、一つの取り組みによってつらい思いをする子がいるかもしれないということを忘れず、柔軟に丁寧に対応する必要があります。それが誰もが安心して学べる学校への一歩となるのです。この行事を楽しみにしている子どももいると思います。昨年同様と安易に決めず、ぜひじっくり内容を考慮してほしいと願います。

さあ新年度がスタートします。子どもたちが安心して夢を語り、将来の目標に向かって努力できるように、学校と家庭と地域がタッグを組み、上からではなく子ども目線で温かく見守っていくことが大切だと思います。

人権まつりださいふ２０１８を開催しました

２月25日(日)、プラム・カルコア太宰府と露切公園において、「人権まつりださいふ２０１８」を開催しました。

「人権まつりださいふ」は市内を中心として、人権問題に取り組む多くの団体が参画する、市民主体のまつりです。今年も多くの皆さんの参画の中、盛会ののち終了しました。

プラム・カルコア太宰府の市民ホールでは、人権作品表彰式や、小・中学校（太宰府中学校、太宰府小学校、水城小学校）、各団体の劇や歌・演奏、取り組みの発表がありました。また２～４階では、展示・体験コーナーを設け、各団体が独自の取り組みや、あらゆる「人権」についてミニゲーム・体験・展示を交えて発信しました。

露切公園では、団体による飲食・物販のコーナー（テント村）が出され、小雨の中、多くの来場者で賑わいました。

市民ホール発表や、展示・体験活動、テント村での発信を通し、あらゆる「人権」について考える「啓発」の場、また、来場者や各団体が「つながる」場となりました。

また、当日は、東日本大震災、熊本地震、九州北部豪雨のことを忘れることなく、日本赤十字社募金箱を設置し、被災地復興義援金を募り、多くの皆さんのご協力をいただきました。本市では、人権尊重のまちづくり、および部落差別解消推進法に基づいた教育・啓発にこれからも取り組んでいきます。

水城小学校の子どもたちによる合唱

展示・体験コーナー

テント村

人権まつりキャラクター
「平（たいら）」と
「和（なごみ）」